

「清水勇人市長と語る」タウンミーティング【浦和区】

〈開催概要〉

日時：令和5年7月20日（木） 18:30～20:00

会場：浦和コミュニティセンター 9階 第15集会室

参加者：16名（傍聴者1名）

市出席者：市長、脱炭素社会推進課

事務局：市長公室秘書広報部広聴課

開催テーマ：地球温暖化対策について考えよう ～みんなでアクション ともに未来へ～

参加者との意見交換

●参加者

<発言1>

私は浦和区の市民体育館で仕事をしていました。浦和区に光発電のパネルがあるのを知っていますか？ 体育館の正面にパネルがずらっと上に並んでいるのですが、そのことを皆さんにお知らせしたいです。

そのパネルで発電した電力を蓄電池に充電し、その蓄電池の電力で電気自動車を充電できるハイパーエネルギーステーションが、駐車場の隣に6基程度あります。実際に使っているのを見ると、一組ぐらいしか充電に来ていません。充電に時間かかるのと、あと充電に来るお客さんが川口とか、浦和区在住ではない方が結構いるようです。何が違うかと言ったら、金がかからないのです、無料なのです。せっかく無料にしているのに、来る方が川口とか、市外の方が浦和区の体育館に来て、充電して帰っていきます。まったく勿体ないですね。せっかく充電設備があるのだから、パネルなり電光掲示板で「充電設備あります」など宣伝しても良いのではないかと思います。

あとステーションがあるのですが、ほとんど使っていないで、駐車場としてしか使っていない。それはどうお考えでしょうか。勿体ないので、是非使ってください。

<発言2>

今から申し上げることは、さいたま市政を非難するものではなく、時代の^{趨勢}で陳腐化や新しいものの出現により、課題として見えてきたものを皆さんと議論し、さいたま市の課題として検討いただきたいもので、それは、さいたま市民のみならず、全国の事業者も巻き込む勢いで進めるべきものと考えます。また本日、私から申し上げたい課題が、本日の検討テーマの3つに横断的に関わってくるものです。

1つ目、さいたま市の取組で、電気自動車が99台稼働中となっています。電気代も高騰する中、電気自動車はガソリン車と違い、自動車単体では地球温暖化対策になりませんが、その電気はどうやって作られているのかを考えると、水力、風力、地熱発電など自然に依拠するものならまだしも、火力は地球温暖化対策にならず、ましてや原子力は地球温暖化対策になったとしても、大きな課題を抱えています。

近年ガソリンに代わり、水素の活用が脚光を浴びてきています。いずれ電気から水素にとって代わるかもしれないと言われていています。それは自動車のみならず、自家発電にも展開するなど、その研究開発に注目すべきものと考えます。さいたま市としては、今後電気自動車の展開は一旦足止めし、水素の事業に取り組んでいる企業との情報交換、地方自治体として何ができるかを密にするなどを積極的に進めてください。

2点目。さいたま市の取組で再生可能エネルギーの導入拡大についてです。特に太陽光発電への取組は、東京都と川崎市で新築一般住戸への義務化を進めていますが、これも太陽光発電機材を使用します。東京電力の買取価格が低下し、売る電気から自家消費に舵を切らざるを得なくなりました。ここで、太陽光発電機材の進化に依拠します。充電の太陽光パネルではなく、フィルム式の商品化、これによって屋根から壁、窓へ蓄電池の性能、安価な製品化の前提で新築一般住戸のみならず、日本まで範囲を拡大して補助金をつけて推進する検討時期に来ていると思われまます。これもさいたま市として、今後太陽光発電機材、特にフィルム化についての事業に取り組んでいる企業との情報交換、先程申しました地方自治体として何ができるか、これなども積極的に進めてください。

< 発言 3 >

何点か考えてまいりまして、まず身近に始めるというのは、身近に感じさせるため、今後さいたま市で30年までの目標計画を立てることなので、目標が幾つで、それに対する進捗がどうなっているのかを紙ベースでの広報紙のみならず、例えば駅や公共施設のデジタルサイネージで計画と実績を常に開示する。こういったところがよいのではないかなと思っています。またその時に、先程パリ協定で「産業革命以前に比べ1.5℃に抑える」とありましたが、産業革命はいつだったかなと僕なんかだんだん忘れつつある。何℃に対して1.5℃なのかも同時に出されると、結構身近に感じるのではないかなと感じています。

また、ゼロカーボンにするという話がある一方で、太陽光パネルで何千世帯分の発電をやりましたとあるのですが、単位を揃えてアナウンスをしていただいた方が、よりわかりやすいのではないかなと感じています。

そのほか、今民間の事業者にいるのですが、蛍光灯からLEDで約50%の節電になりますので、事業者、家庭、LEDの補助金を創設していただけるとありがたいなと思いました。その補助金の時に、代行申請が可能であれば、一般事業者は、申請するのは結構

面倒くさいから諦めている方もいらっしゃるので、代行申請が可能であればご検討いただければと思います。

あと長期的には、他の市町村でもやっている、小学校高学年の授業で自分たちはどういう取組をしているのかを取り入れることを、既にやっているのかもしれませんが、ご検討いただければと思います。

<発言 4>

2点あります。1点目が②の取り組んで欲しい分野と、2点目が①の市の地球温暖化対策についてです。

1点目は、資料で何も触れられていないのですが、直接的には交通渋滞の緩和に取り組んでほしいと思います。環境問題に決定的に影響していると思いますし、住民の住みやすさにも、非常に影響を与えるものだと思います。県道や国道もあるので、縦割りではなく取り組んでほしいです。さいたま市として、こういった新しい取組はもちろんよいのですが、身近なところのクリティカルな問題に対する取組も是非お願いしたい。

例えば、ジャストアイデアなのですが、公共交通機関、路面バスはあるのですが、車の代替ということでは、横移動など、地域の交通機関が足りていないかなと思っています。例えば、もう少し小型のコミュニティバスみたいなものを、電気自動車をもっとこまめに走らせて、交通渋滞を減らす。道路がもっと広くないと駄目だと思います。そういったものが、環境問題に直結してくるような気がしますので、検討していらっしゃるかどうか。まだしていないのなら、是非検討していただきたいと思っています。

2点目は、大きな話にはなるのですが、地球温暖化について、最近国も自治体も大企業もですが、環境とかゼロカーボンなどを、非常に聞こえのよい広告宣伝効果のある言葉として使用していますが、是非、客観的な定量的な評価ができるようなものを設けて、それをベンチマークにして取り組んでいただきたいです。例えば、第三者の客観的な評価機関みたいなものが自治体にあるのであれば、そういうものを是非取り入れて、ちゃんと評価をして、結果が目に見える形でやっていただきたいです。さっき日経新聞ランキング1位とありましたが、メディアの人気ランキングではなくて、実効性のある取組をして、グリーンウォッシュと揶揄されないように頑張りたいと思っています。

<発言 5>

本日はエネルギー事業者の立場で参加させていただいています。

先程、2050年に向けたカーボンニュートラルという話が出ましたが、まさにカーボンニュートラルのためには、再生可能エネルギーの導入が非常に大事だと思っていますところですが、私どもガス事業者としても、都市ガスそのものをカーボンニュートラルにしていく取組として、合成メタンみたいなものの実証、開発を進めています。

また、先程お話も出ていましたが、水素開発みたいなところも行っています。ただ、それは並行してやりつつ、今時点でできることをきちんと地に足を付けてやっていかなければいけないと思っています。例えば省エネとか高効率化とか、あと身近にできることも含めて、今できることのための自治体としての支援が、すごく大事だと思っています。なので、長期的に見たところと短期的に今できることを両輪でやっていくことが、これからの政策として必要になると思いますので、事業者としても頑張っていきたいと思っています。

<発言 6>

3つほど、お願いしたいと思っています。

1つ目は、緑地保全や緑地の拡充についてです。もう既に取り組んでいるようなことですが、日本一を誇る桜回廊の桜の木の保護策として、一般車両通行止めの区間としていただいた舗装路もあります。そういった所は、水分透過性のある舗装材を採用していただけたら緑地保全のためによいのではないかとというのが1つです。

あと活動地域周辺には保存緑地や、特別緑地保全地区などを設けていただいています。こうした緑地指定の候補地は市内にまだまだたくさんあると思いますが、管理不十分で倒木が散策路に覆いかぶさってくる事例も数日前にありました。こういったものも、遺産相続の時になると、宅地化の道を辿るおそれもあります。そういった意味で引き続き、市として積極的な緑地拡充策をお願いしたいと思います。

次に、さいたまセントラルパーク整備の早期実現のお願いです。さいたま市は人口増の影響もあり、公園面積1人あたり10平米という目標には遠く及ばない状況になっているかと思っています。公園不足を補う効果はもとより、防災機能として向上させることもありますので、早期に実現を図っていただければと思います。

お願いばかりですが、3つ目に、今後重点的に取り組んで欲しい分野についてお話ししたいと思います。燃焼処理に代わり、分別されていない多くの種類のプラスチックの混ざった混合ごみから、プラスチックの原料ガスを成分として取り出すような技術が開発されてきています。既に実証プラントが稼働中という報道もあります。既に建設中のサーマルエネルギーセンターには間に合わないと思いますが、次の段階での導入に備えて、ゼロカーボンシティの実現に結びつけてほしいと考えています。

<発言 7>

1つメインとしては公園緑地の面積を市の郊外にいっぱい作っても仕方がないので、市中にどれだけ作ることができるか、ということです。

13年前に地域で発行したパンフレットを見てもらうと、街区公園とか近隣公園とか、ほとんど比率として低く、未だにこれできていません。公園が作りたいということでは

市と相談をして、場所の確保を依頼されました。その後、土地の買い取りではなく、借地公園にしかできない。地権者と、その地権者が亡くなると困るという理由で、相続対象となる人の了承までもらってくるように、と言われました。そんなことでは、地権者としては、市に土地を提供しようという意思があったとしても税制上など何のメリットもありません。一般のハウスメーカーに売の方がよほどメリットがあります。今街中で公園を作ろうとすると、そういった問題があるため、地主が市に土地を提供しやすいメリットを作らないと、永久に公園はできないと思っています。

<発言 8>

建設関係の仕事をしていますので、30年前から太陽光発電について提案しています。

その中で、個人的に太陽光発電の補助金はやめていただきたいと思っています。理由は、太陽光発電は、冬と夏で6割ぐらい発電に差があります。ところが、メーカーのパフレットは計算式で出しているからそうになっていません。さいたま市で各所にいっぱい太陽光発電設備をつけた話がありましたが、その実際のデータをできれば公表していただきたいです。そんなによくはないはずです。また、大体1kwの太陽光発電設備でデータとして40万ぐらいかかるでしょうから。1年間で太陽光発電設備1kwで4万円分ぐらいしか発電できないと思います。最低でも10年かかります。そうすると、変換装置は10年間ぐらいで寿命ですから、またお金がかかってきます。とても、太陽光発電設備が地球温暖化対策に寄与できているとは、私は思いません。また、当然不安定ですよ。曇れば電圧が下がる、夜は発電できない、蓄電設備を入れる必要があります。蓄電池設備を入れると、億単位のお金がかかってきます。

今世界の太陽光発電の製造は97%が中国です。そこに全部お金がいきます。日本のメーカーは製造をもうやめています。このような状態の中で、先程定量的に客観的な評価の話がありましたが、実際にさいたま市で出していただきたいです。そうしないと、多分多くの方はわからないと思います。意外と太陽光発電設備をつけることは、私は計算上で損していると思います。よろしければ、ご対応ください。ちなみに、今回の御提案の中で一番良かったのは、15ページ（家庭でできる温暖化対策）です。これが一番よいと私は思っています。

<発言 9>

環境問題に子どもの頃から興味がありまして、私は市外の学校に勤めていまして、本校の屋根にも太陽光パネルが載っています。もう1校、太陽光パネルが載っている所があって、そこに私、以前勤めていたのですが、お金がかかってしまってメンテナンスができていませんでした。結局、太陽光パネルはあるが、そのままお飾りになってしまっているところがあります。なので、設置した後のメンテナンスも、しっかりと継続してできるようにやっていけたらなと思っています。

いろいろと導入をしますというのは、こんなにできていることを初めて知ったので、本当にすごいなと感じています。埼玉県の地球温暖化防止活動推進員をやっているとして、子どもたちの前で環境学習の授業をさせていただくことが多いのですが、子どもたちからの感想として、こういった環境問題があること自体を知らなかったり、地球温暖化がこのような状況になっていることも知らなかったのが驚いたというものがとても多いです。子どもや住民の方が、どのように環境問題を意識しているか、についても今後調査なり把握をしていけたら、更に住民の方の思いを反映できるのではないかと思います。

◆市長

>>発言1

体育館にある、太陽光パネルを利用した電気自動車の充電設備のお話が出まして、活用がされていないということでした。この辺については、しっかり広報していきたいと思っています。

>>発言2

今後の展開として、水素事業に取り組んでいる企業との情報交換なども積極的に進めて欲しいというお話をいただきました。

さいたま市は当初、次世代自動車・スマートエネルギー特区の指定を受け、電気自動車や水素も含めた次世代型自動車の普及促進と、あとハイパーエネルギーステーションという電気の充電設備、それから水素供給のステーションもやってきました。東京ガスと組んで、桜区中島でオンサイト型の施設を作らせていただいたり、あと岩谷産業と組んで施設を作ったり、ENEOS と組んで、別な所で作って供給するオフサイド型として、ガソリンスタンドで供給するスタイルなどがあります。あと移動型のものも2基あります。水素についてはかなり早めにスタートしてきたところです。

今後、やはり水素の活用も考える必要があります。太陽光の議論がありましたが、太陽光だけでは、到底賄えるものではないのは、私たちも現実としての問題だと思っています。水素も含めて、二酸化炭素の排出をしないエネルギーをしっかりと作り、またそれを活用していく取組を組み合わせていかないと、できないと感じています。そういう点では、引き続き水素については規制もたくさんあるものですから、政令指定都市市長会などでも議論をしまして、政令指定都市市長会としても、国への緩和の要望などもさせていただいています。引き続き、水素の活用などについてもしっかりと取り組んでいきたいと思えます。

それから2点目の、屋根の太陽光発電設備だけではなく、ガラスや壁など、こういった所の太陽光発電機器ということなどについても、情報交換を進めておく必要があると

御提案をいただきました。これも今、例えばカネカなど、いろいろな所が、ガラスや壁につけられる太陽光の発電設備を作っています。さいたま市が技術を開発して何かに取り組むことが現実としてはできないものですから、いろいろな企業の皆さんと連携をして、いろいろな新しい再生可能エネルギーの技術について、学ばせていただく、連携させていただいて、特に効率的なものを、積極的に導入しながら、取り組まなければいけないと感じていますので、引き続きやっていきたいと思っています。

>>発言3

身近に感じさせるためには、この目標の数値に見える化をする必要があるという御提案をいただきました。これは本当に、そのとおりだと思います。見える化をして、それから今どういう状況になっているのかを市民の皆さんにお知らせすることは、環境問題に限らずですが、できるだけお知らせすることはすごく重要なことだと思っています。さいたま市も、他の分野でも、いろいろな形でホームページを通じて、今こういう数字になっていますよとお知らせしていますが、これについても取り組む必要があると考えています。

ただ1点、難しい問題があります。この二酸化炭素の排出量の問題については、エネルギーが非常に、前は例えば電気だったら東電とか、ガスだとLPガスか東京ガスなど供給元が限られていたのですが、いろいろな形で販売されるようになったため、細かいデータがわからない状況です。現状としては、地方自治体では把握できておらず、政令指定都市市長会で大きな議論になっています。

というのは、目標を立てても、それが先程からお話としてあるように、どこまで進んできたのかという検証ができません。様々な施策を行っているので、それがきっちり目標に対応できているのかも、私たち自身で検証していかなくてはいけないのですが、それが必ずしも把握ができないという、そんな状況ですので、それについては、国に対して、自治体ごとの数値の把握ができるようにして欲しいと。要望しているところです。

あとは、LEDの補助のお話が出ました。事業者向けについては、今エネルギー価格の高騰化もあって、単にお金を出すだけでは1回限りで終わってしまいます。企業の電気の使用量はものすごく多いので、例えば冷蔵庫を使っている所は、省エネ型の冷蔵庫に転化してもらおうと、継続的にそれが活用されますので、さいたま市ではそういったLED機器も含めた補助金を作って、企業の皆さんに活用していただく取組を行っています。

小学校での教育は、すごく重要なことだと思います。環境問題、カーボンニュートラルのお話については、おそらく若い人たちの関心が一番高いのではないかと思います。自分たちが大人になった時、成長した時に、この日本は、世界は、地球はどうなってしまうのだろうという不安が、すごくたくさんあって、とても関心が高いテーマだと思っていますし、その子どもたちにどうやってわかりやすく伝えていくかということも、

すごく重要なテーマだと思っています。さいたま市では、各学校で SDGs に関してテーマを設定して、学校で授業を行ったり、活動したりしています。

1 つ例を挙げますと、昨年の 11 月に、「さいたまサステナブル都市サミット～EKIZUNA グローバルサミット～」という、さいたま市が主催する国際会議として初めて、脱炭素化を目指した国際会議を開催しました。一般社団法人イクレイ日本と共催でやらせていただきました。その時の、オープニングにさいたま市の小中高等学校の子どもたちに参加をしてもらいました。

それはどういうことかということ、会場やオンラインで参加の小学校、中学校、高等学校の子どもたちが、どうしたらこの地球温暖化を防ぐことができるかというテーマで、少人数でのグループディスカッションをして、それをパネルディスカッションのテーマに掲げたり、全体での議論をしたりという方法です。すごくやり方も面白かったし、多くの子どもたちが参加をして、子どもたちなりの捉え方がたくさんあるので、それをしっかりと意見として述べてくれていた子どもたちの姿が、すごく印象に残りました。

ただ、これはまだまだ一部だと思っていますので、これをどうしっかり学校教育の中で根付かせていくかは、非常に重要なことだと思っていますので、今後も教育委員会との連携をしながら、しっかり対応していければと思います。

>> 発言 4

交通渋滞の緩和に積極的に取り組んで欲しいという御意見をいただきました。これによって、地球温暖化をもう少し減らすことにもつながるだろうというお話や公共交通を積極的に活用していただくことで、自家用車からの排出量を減らせるのではないかと御提案でした。

本当にそのとおりだと思います。交通渋滞の緩和については、これは国道・県道も含めまして、いろいろ進めているところです。環境だけではなくて、経済の生産性としても非常に落ちてしまうことですので、広域的な交通網も含めて、例えば広域的なことと言うと、今首都高速道路の北伸を進めていて、どうしても、国道 17 号（新大宮バイパス）の大宮以北が非常に混んでいる状況ですので、そこを解消するために、国の事業としてやっていただくことになっています。

もちろん、さいたま市も一部負担をしなくては行けません、そういった取組や、広域的な高速道路もやっていますし、身近な国道や県道についても取り組んでいるところです。まだまだ道路については、少し時間がかかるとは思いますが、しっかり取り組みたいと思っています。

また公共交通についても、これも大変重要な視点で、コロナの前には特に積極的にやってきましたが、コロナによって、公共交通の利用者が残念ながら減ってしまった状況があります。ただ、やはりできるだけ自家用車ではなく、公共交通を活用していただくことが非常に重要だと思います。

そのためには、利便性の高さや、ラストワンマイルも含めて、どう移動手段を確保していくかが非常に大きなテーマだと思っています。MaaS（マース）という視点で、自動運転なども含めて、例えば公共のバスとそのバス停までどうラストワンマイルでつながっていくかも含めて検討しています。シェアサイクルとして、市内で約400箇所近くステーションが存在します。他にも、自転車だけではなく、電動スクーターや超小型EVを含めたシェア型マルチモビリティの実証実験を行っているところです。

いずれにしても、これは高齢化社会の問題もありますので、公共交通でも移動ができる環境をつくっていくことは、環境問題とともに、非常に重要なテーマだと思っています。美園はAI デマンド型の公共交通の実証実験を行っていますし、総合的にいろいろ取り組みながら、できればサブスクで年齢ごとに月々幾らという設定で、どのバスに乗ってもレンタル自転車に乗っても、公共交通であれば一定の金額で乗れるような仕組みができればよいと、そういうことを思い描きながら今検討を進めているところです。

>> 発言 5

今、東京ガスが進めている合成メタンや水素の開発については、私たちも大いに期待をしていますので、是非進めていただきたいと思っています。省エネ、エネルギーの高効率化の支援については、先程も少し申し上げましたが、事業者に対する支援や太陽光と蓄電池のセットでの支援なども今、行っているところですが、そういったメニューを拡充することも重要だと思っています。あと今、特に住宅についてはPPAという、持ち主がイニシャルコストを負担しなくても導入できる仕組みも出てきています。補助金だけですと、どうしても数に限界がありますので、そのような仕組みも含めて、うまく連動させながら検討していきたいと考えています。

>> 発言 6

緑地の保全、二酸化炭素を吸収する側の視点で、緑地の保全や拡充は、セットでやらないといけないことだと思っています。桜回廊の保全のお話と、舗装のお話が出ましたが、これからそういった浸透性の高い舗装も含めて、いろいろきめ細やかにやり方も検討していかなくてはいけないと感じているところです。

それから、特別緑地保全地区の維持管理についても、さいたま市の場合は特に見沼たんぼを中心とした、非常に大規模な緑地群が残っていますし、また先程公園のお話も出ましたが、公園も含めて、これから進めていく駅周辺のまちづくりについても、緑地をどう生み出していか、作り上げていか。これが大変重要なテーマなので、緑地の維持管理や創造についても取り組みたいと思っています。

それから、さいたまセントラルパークの早期実現についても、パブリック・コメント等終わって、順次地権者に対する、御説明や土地の購入を進めていきたいと思っています。環境という意味でも、防災という意味でも、大変重要な事業であると認識していますの

で、しっかり進めていきたいと思います。また、エネルギーの新しい技術等についても、いろいろな形で注目をしながら、新しい技術はどんどん進歩していますので、有用な技術については活用していくことも含めて、考えていきたいと思います。

>>発言7

かなり具体的なアプローチの仕方の取組として、地主、地権者の皆さんが協力しやすい環境を作っていくことが、本当に重要なことだと思いますので、更に検討していきたいと思います。

>>発言8

太陽光についての補助について問題提起をいただきました。これについては、私たちも先程のデータ、数値、エネルギーがどういった状況になっているかということも十分検証していく必要があると思います。データや検証結果について、市民の皆さんにお知らせをしながら、有効であるのかどうか、しっかり見極めながら、進めていきたいと思っています。

それから定量的、客観的な評価と、これは先程のお話と多分同じだと思いますが、これは数値がまだ現時点では詳細に把握できておらず、全体の数値から割り出していきやり方でしかわからない状況になっています。これは何とかしないと、皆が取り組んでも、日本全体としてはわかるかもしれないのですが、都道府県であるとか、具体的な努力を一番行っているのは市町村だと思いますので、市町村や市民の皆さんがどう努力をしてどうなったのかがわからないのは、本当に致命的なことだと思っています。これらについてはしっかり数値もわかるようにしていきたいと思っています。

15 ページ (家庭でできる温暖化対策) が一番よいという、具体的な行動に移せることでの評価をいただいたのかなと思います。できるだけ私たちも具体的にわかりやすい、こうするとこうなりますよということが市民の皆さんにわかりやすい提案を、これからもしていきたいなと思います。

>>発言9

学校の話をお伺いしましたが、太陽光パネルがあまり機能してないのではないのか、メンテナンスのことも十分配慮すべきではないかという、御意見をいただきました。これは本当にごもつともだと思います。私たちもその辺の状況やメンテナンスの問題についてももしっかり考えながら対応していきたいと思っています。環境学習についても、先程お話ししたことと重複しますので申し上げますが、非常に重要だと思っています。

●参加者

<発言 10>

先程、学校で SDGs の授業というお話があったかと思いますが、確かに私たちは学校で SDGs について話し合い、発表するという、学びを深める場があります。ですが、ここでよく話題にあがるのは世界の貧困だとか、世界の地球温暖化などがすごく多くて、身近な地球温暖化対策というのが、忘れられている印象を受けます。

いただいた資料にも電気自動車を導入しました、とか、そういうエネルギーをよりクリーンな、二酸化炭素を出さないという面でいろいろな対策をされていると思うのですが、私はこの 15 ページにあるエネルギーの使用量自体を減らす取組をもっと充実させていくべきと思いました。市民主体となって地球温暖化を身近に感じられるような広報だとか、具体的な対策をもっと市民に向けて伝えていくのが、今後その短期の対策という面でも必要なのではないかなと思いました。

<発言 11>

今後重点的に取り組んで欲しい分野について、11 ページにゼロカーボンシティ推進戦略の内容で、都市間連携による脱炭素化の推進という文言がありますが、さいたま市はいろいろな東日本の都市地域と連携していてすごくよいなと思っています。埼玉県内であったり東北の方であったり、山が放置されていて木に手が入れられないような状況になっているなど、いろいろなところがあると思います。私の実家も山の方にあり、木に手がつけられなくてもう買いたって言えばタダであげたいぐらいですが、そういった連携をしている都市の山林とかを活用して、政令指定都市なので大消費地になると思いますが、そういった連携の仕組みとかがあると都市部も地方の方も win-win の関係になっていいのかなと思ったので、是非何か仕組み作りができれば嬉しいなと思いました。

<発言 12>

本日こうしてタウンミーティングに参加させてもらい、その中のこの資料でいろいろなさいたま市が行っている対策だとか、対策の現状だとかを知ったのですが、こういったものを知る機会が、思い出してみればこれまでなかったのです。ですので、小学校高学年及び中学校とか、その辺りの段階のどこかのタイミングで、さいたま市の学校の児童生徒に地球温暖化についての現状と、さいたま市がしていることを知る機会をもっと与えるべきなのではないかなと考えました。

具体的には、学校でよくやっているような交通安全教室と同じようなニュアンスで、市の方で地球温暖化に関する動画を製作してもらって、それを総合的な授業で扱ってもらおうとか。そういったことをすると、より多くの児童生徒がこうしたさいたま市が、自分が住んでいる地域が今地球温暖化に対してどんなことをしているのかが、よりわかりやすくなるのではないかなと思いました。

<発言 13>

資料にありました、さいたま市の取組でサーマルエネルギーセンターを整備ということで、これが検討テーマの①、②、③に含まれるかと思ひまして。

まず御紹介したいのが、さいたま市のホームページで、さいたま市のごみ焼却場について、「市内に4か所ある廃棄物処理施設の中には、稼働から30年以上経過している施設もあり、老朽化が進んでいることから、安定した処理を継続するため、廃棄物処理施設全体の計画的な更新・再編及び長寿命化を図る必要があります。そこで、第4次さいたま市一般廃棄物処理基本計画に基づき、西部環境センター及び東部環境センターの2施設を統廃合し、サーマルエネルギーセンターを整備し、3施設体制とします。」と紹介されていました。なるほどなと思ひました。

それで、これで是とするのではなく、更なるごみの減量化、リサイクル化を図るため、更なるごみの分別収集化及び発生事業者回収を徹底させるなどの推進を図るとよいと思ひます。実はここのベースにあるのが、私が単身で網走に1年間行っておりました。あそこは、すべてごみ回収は有料です。なぜなら、焼却場がないのです。埋め立てるしかできない。なぜなら環境保護のためです。市民の方が環境保護を是とすることから、焼却場つくりず埋め立てで対応すると。ついでにごみを有料化、かつ分別収集して、資源化をかなり徹底していました。でも、市民も「ああこんなもんだよ」という感じで、私も1年間行っていましたけど、ああ分別だなということでは一生懸命分別に協力し、慣れました。

それでお伝えしたいことが、先程も申しました日本全国の事業者も巻き込めというのは、次のことです。まず1点目、プラ、缶、瓶。これらの資源ごみの回収は、コンビニ及びスーパーに任せる。既に牛乳パックや食品トレーはスーパーでの回収が常態化しており、プラごみは一部のコンビニで事業化、それから飲料缶は自動販売機の横に必ず回収ボックスがあります。それで、事業化になっています。これをさいたま市の条例で、義務化にしてはどうかということです。日本一うるさいさいたま市、大いに結構です。さいたま市では一切回収しません。また、家電製品等も電気販売事業者で回収義務化を図るなど、販売者が販売したごみを回収。いわゆる製造責任、PL法のごみ版を作ってはどうかと。そこまで責任を取らせる体制を図るのはいかがでしょう。

2点目、新聞紙・ダンボール・古紙は、新聞販売店、古紙回収業者や町内会とか小学校等で集めて、それを古紙回収業者に売るということです。

それから3点目、家具等の粗大ごみやリユースの推進。朝霞市でやっているのを見ってきましたが、非常に綺麗にして家具等を再利用でリユースしていました。

それから4点目、鉄屑とかその他のごみなど対応できる事業者等が見つからない部門のみ、さいたま市がこれも有料で、回収で対応します。そうすると、ごみの不法投棄の取り締まりが重要になってくるなと思ひました。そこで、町内会のシルバー世代に活躍してもらい、町内会や不法投棄されそうな場所の見回りや、不法投棄された物を今まで

挙げた指定事業者に取り取ってもらおう。それでも取り取り手が無い物は、市で回収ということを考えています。

それから5点目、生ごみの対応ということで、小世帯家族、例えば5人規模等については、コンポストバッグ。それから、マンション棟の規模の大きい所ではコンポストを配布して、生成された肥料をさいたま市が回収します。ごみの回収ではなくて、コンポストによってできた肥料を回収します。先ほど緑地という話が出てきましたが、農家やさいたま指定の花壇、市民農園などで回収した肥料を活用してはいかがでしょうか。

6点目、このようにごみの減量化のためには、リサイクルの回収を強化するための政策を進めることで、まさにゼロカーボンのSDGsにもつながると考えました。

<発言 14>

先程から、15 ページ目の「皆さんにお願いしたいこと」というのが意見として出ていたかと思いますが、東京ガスグループでも昔から節ガスや節電などの、ウルトラ省エネブックという冊子を作っております。これはホームページにも載せていて、まさに暮らしに役立つ68の省エネアクションというのを作っているのですが、なかなか認知度が上がっていません。

こういった物を、多分単純にホームページに載せたとしても、なかなか皆が見ないかなと思っていて、そういった意味では、例えば小学校対抗のゲーム感覚で、こういった物を使っていくとか。何かそういうちょっとした仕組みみたいなものが、もしかすると必要なかなと思いました。なので、企業だけではなくて、自治体と一緒にしながら、こういったものを皆が実行できるような仕掛けみたいなものを作っていけるといいかなと思いました。

<発言 15>

自然環境ということでごみの話をします。皆さん、ペットボトルで飲料水を飲みますよね。お茶とかコーラとかね。捨てる時に、そのままペットボトルを捨ててないでしょうか。実は、キャップを外して、周りのラベルを外して捨てるのとちょっと違うのではないかと思います。

何でこんな偉そうなこと言っているかという、ごみ処理の現場を見させていただいたことがあります。そこにはペットボトルがいっぱいあるのですが、ペットボトルの周りのラベルを外して、ふたも外して処理していました。例えば、今ここにいらっしゃる17の方がそれをやると、もしかしたら少しはさいたま市のごみがうまく分別できるかもしれません。単純にペットボトルは分別ですよと言って、ペットボトルをぽんっと捨ててしまうと、実はその先にそれをわざわざ処理をしなくてはいけない工程がついてまわるのです。

さいたま市でも、例えばごみ処理施設、クリーンセンター大崎みたいな仰々しい所じ

やなくて、皆さん「分別」と言われますが、実際のその分別のごみからその必要な部分の原料だけを取る。ペットボトルだったらペットボトルの中の本体だけで、ラベルは材質が違いますよね、キャップも違います。それを現実的に区分している所が埼玉県の中にはありますので、そういう所に、市民旅行じゃないですけど、SDGs の旅行みたいに市でバスをチャーターしていただいて、募ったらいかがでしょうか。

<発言 16>

先程から身近な自分ができる対策ということで 15 ページの内容が取り上げられているのですが、よく埼玉県地球温暖化防止活動推進員の研修会とかで言われることが、我慢をさせるような、節電・節水というと結構我慢をさせるとか、そういった意識がありますので、マイナスのイメージで捉えられてしまうと、おそらくやる気がなくなってしまいますので、特に市の方からだと上から言われているような圧力があって、それで心が離れてしまっただけでは逆効果なので、何でこういったことをしないといけないのかとか、何でこういったことを私たちが言っているのかという理由というか、地球温暖化の対策の意義とか、そういったものをしっかりと伝えていくことがすごく大切なことではないかなと思います。

例えば、ペットボトルの今の分別にしても、やろうという気持ちがなければおそらく誰もやらないと思いますので、少しずつあげてあげるような、少しやる気を起こさせてあげるようなことがすごく大切なことだとよく言われています。そこをうまくアピールしていくことが大切なのではないかなと思います。

◆市長

>>発言 10

いろいろ SDGs の勉強はしているが、身近な問題ではない、身近に引き寄せた学習ではないので、もう少し身近なものとして、学ぶ機会がもっとあったらよいのではないかと御提案をいただきました。これは外国や全然自分とは関係ないところで起こっていることではなく、自分の身近な問題にも直結していることを、どう若い世代の皆さんに知っていただくかが最大のポイントだろうと思います。是非そういったことも含めてプログラムを考えていかなくてはいけないことを改めて再認識しました。

>>発言 11

都市間連携のお話をいただきました。さいたま市は今 29 の東日本の北海道、東北、上越信越、北陸の自治体と連携をしていて、そのうち 15 団体と「東日本でつなぐ SDGs 宣言」を行いました。

政令指定都市は特にエネルギーをたくさん使い、排出量が多い場所のため、20 ある

政令指定都市はどこも同じ課題だと思いますが、市内で行う取組だけではゼロカーボンシティにはなりません。そのため、森林のある地域との地域間連携によって排出量を取引して相殺したり、自然再生エネルギーを購入する形で導入したり、というやり方も、重要なポイントだと思っています。さいたま市は先程のとおり既に個別に協定を結んでいますし、横浜市も東北の6つの町くらいとも協定を結んでいます。

さいたま市は関連がある自治体が複数あるため個別に協定を結べていますが、政令指定都市市長会で議論を行い、先日国に対し、地方で自然再生エネルギーの余っている地域や森林がたくさんあってそれを吸収しているエリアと、二酸化炭素をたくさん排出するエリアとをマッチングする取組を積極的にやっていただきたいという要望をしました。

今さいたま市としては独自に他自治体との協定に基づいた取組を行っていますが、更に推進していきたいと思っています。

>>発言 12

これまで地球温暖化というような言葉はあったが、あまりさいたま市がどういう取組をしているのかとか、具体的な問題として聞く機会はありませんでした、今回初めて知ったというようなお話をいただきました。動画を製作して、総合的な学習の時間などに活用してはどうかという御提案をいただきましたが、本当にそのとおりだと思います。検討していきたいと思っています。

>>発言 13

ごみの減量化、リサイクル化の推進というお話がありました。これも本当におっしゃるとおりで、さいたま市としても取り組んでいるものもありますが、まだまだリサイクルができる物もたくさんあるだろうとも思っていますし、もっともっと進めていかなければならない取組も多いのかなと思っています。

例えば先ほど出た話で言うと、家具や粗大ごみについてのリユースについては、民間の皆さんが活用しているアプリと組み、それを具体的に身近に取引と言いますか、いらぬ方がもらってもらえるような、そういった仕組みで取り組んでいます。またレアアースが含まれるコンピュータのような資源については、これも民間事業者と組んで回収し、リサイクルを行っています。あと生ごみについては、民間の方々と一緒に食品ロス削減に取り組んでいます。

そして、1つはキャンペーンと、Saitama Sunday Soup というのがあり、これは是非ホームページで動画を見ていただきたいのですが、日曜日に冷蔵庫に残っている食材を使ってスープを作って、家族でそのスープで楽しみましょうという動画を作っています。いろいろなレストランなどと組んで、余った食材や料理を、安く購入していただくアプリなどとも連携して、取り組むこともしています。生ごみが結構大きな要素になってい

ますので、そういったことにも取り組んでいます、まだまだ、必ずしも多くの皆さんに知っていただけていないのが大きな課題です。

>>発言 14

私たちもいろいろな取組をしているのですが、まだまだ知られていない。市民の皆さんの心に届いていないというのが最大の課題ですので、そういった啓発活動ややり方の工夫として、ゲーム感覚でというお話もありました。楽しんで皆さんに取り組んでいただいたり、その意義を感じてもらいながら進めていったり、その結果がちゃんと見える化がされ、自分たちが頑張ってきたことで、どのような効果があがっているのかを市民の皆さんに知っていただくことが大切だと思います。やはり、うまく循環をさせていけない取組はうまくいかないし、一時的にはできても、途中で飽きてやらなくなってしまいますので、うまく循環ができる仕組みもあわせて、私たちとしてもしっかり取り組んでいかなければいけないと思っています。本当にまだまだ課題が多いなと思っています。

>>発言 15

ペットボトルの分別の仕方について細かく解説をしていただきました。おっしゃるとおりキャップを取って周りのラベルを取り、そして出していただく。最近、会社によっては周りのラベルをしない会社も出てきていますが、そういった地道な工夫をしていただくことによって二酸化炭素の排出量が減ったり、あるいはごみの処理の費用が減ったり、そういったことにつながることを多くの市民の皆さんに知っていただきたいなと思います。

それから、ごみ処理の現場をもっと見てもらったらどうかについても、民間企業の、缶やペットボトルのリサイクルをやっている工場等と連携して、夏休みなどに皆さんに見ていただくようにお知らせもしているのですが、これもなかなか伝わってなくて、まだまだ十分ではないと思います。

いかに市民の皆さん一人ひとりにこの危機感と、やることの1つ1つ具体的な意味と、それによってどういう効果が上がっていくかということ、どう知ってもらうかが非常に重要だなということ、皆さんからいろいろお話を聞いて、非常に反省しているところです。

>>発言 16

我慢をさせるだけではなく、意味もきちんと伝えていくべきだというお話も伺いました。やる意味と、それでやり方もできるだけ楽しく、しかもその効果がきっちりと現れてくれるように見える化をする。こういったポイントがきっとあるのだらうと思いますので、私たちもいろいろな工夫をして行きたいと思っています。行政だけでできるものでは

ありませんし、カーボンニュートラル、ゼロカーボンシティを作ることは簡単にできることではないと思っています。市民の皆さん、事業所の皆さん、多くの皆さんがしっかりと同じ思いを持って進めていかないと、2050年にゼロにするのは非常に難しいと思っています。

現在、ゼロカーボンシティ推進戦略の見直しをしていて、これまでの目標がちょっと低かったものですから、それをかなり高く上げて取り組もうとしています。一方でそれを実現するための手法や取組について、私たちも頭を悩ませながら検討しています。

いずれにしても、市民の皆さんに知ってもらう、危機感を持ってもらう。それから楽しんでもらいながら、モチベーションを高めて取り組んでいただく必要があります。補助や啓発、見える化などの工夫をしながら、やらなければいけないと思っています。

本日は皆さんに大変有意義な、また様々な素晴らしい提案をいただきまして、本当にありがとうございました。またこの脱炭素化、ゼロカーボンシティに向けては、まだしばらく時間がかかりますが、進めていかなければなりませんし、また合わせて、今すぐにでもいろいろなことを実行して行動していかなければいけません。是非皆さんにもまた引き続き御協力をいただきたいと思ひますし、また本日のタウンミーティングだけでなく、わたしの提案制度のような、いろいろな機会があると思ひますので、どうぞお寄せいただいて、私たちも皆さんと一緒に、それを実現するために取り組んでいければと思っています。

本日は1時間半という、発言する時間が短くて、大変申し訳なかったのですが、御協力をいただきありがとうございました。また引き続き、どうぞよろしく願ひいたします。

■補足説明

「電気自動車のステーション」について

ステーションに関しましては、ホームページを活用して広報をしております。意見を踏まえ、これまで以上に広報に力を入れるとともに、電気自動車への補助金の周知など、市域内の電気自動車の普及にも力を入れて取り組んでまいります。

(環境局 環境共生部 脱炭素社会推進課)

「単位を揃えてアナウンスすること」について

指標に応じた単位で揃えることが適切だと考えております。太陽光パネルの発電の場合、1人当たりの発電量よりは、一家に1台設置するものだと想定されますので、世帯数で図るのが適切だと考えます。一方で、削減量に関しては、1人1人の行動に対して決まってくるものですので、世帯で見るとはならず人数で図るのが適切だと考えております。

(環境局 環境共生部 脱炭素社会推進課)

「事業者向けの補助金の手続き」について

申請手続きの簡素化を行い、より簡単に申請を行えるようにしました。

(経済局 商工観光部 産業展開推進課)

「客観的な定量的な評価」について

客観的・定量的な評価が出来るよう、脱炭素先行地域の取組としても、市としても見える化の実現に向けて取り組んでいるところでございます。

(環境局 環境共生部 脱炭素社会推進課)

「さいたまセントラルパーク整備事業のパブリック・コメント」について

さいたまセントラルパーク整備事業において、パブリック・コメントは実施しておりません。

(都市局 みどり公園推進部 都市公園課)

「混合ごみからプラスチックの原料を取り出す技術」について

次期清掃センターを建設する際に導入について検討いたします。

(環境局 施設部 環境施設管理課)

「地主が市に土地を提供しやすいメリット」について

公共事業において土地をお譲りいただいた場合にお支払する補償金は、譲渡所得となり所得税が課税されますが、一定の条件を満たした場合、租税特別措置法の優遇措置等を受けられます。詳しくは所轄の税務署または市の担当課にご相談ください。

(都市局 みどり公園推進部 都市公園課)

「太陽光発電設備の補助金」について

太陽光発電設備の補助金に関しては、市民の方々のニーズが高く、予算を年々積み増して実施しておりますが、すべての予算を執行している状況でございます。執行した予算に対しての効果と市民の方々のニーズとを総合的に判断して、太陽光補助金の継続の可否を判断します。

(環境局 環境共生部 脱炭素社会推進課)

「PL法のごみ版」について

テレビ、エアコン、洗濯機、冷蔵庫は「家電リサイクル法」により、メーカーの引き取り義務及び再商品化義務があります。

(環境局 資源循環推進部 資源循環政策課)

「古紙回収」について

現在、町内会や学校等で資源物を自主的に回収する取組に対し、「団体資源回収運動補助金」をお出ししています。

(環境局 資源循環推進部 資源循環政策課)

「家具等の再利用」について

家具のリサイクルについては、以前岩槻環境センターで行っていましたが、リサイクルショップの台頭などにより、センターの閉鎖とともに終了しております。

(環境局 資源循環推進部 廃棄物対策課)

「不法投棄された物」について

不法投棄された物については、不法投棄された場所の所有者若しくは管理者が処理する様法律で定められております。

(環境局 資源循環推進部 廃棄物対策課)

「コンポストによってできた肥料を回収」について

生ごみ処理容器等を購入される方への補助制度は実施しておりますが、肥料の回収については課題が多いものと認識しております。

(環境局 資源循環推進部 資源循環政策課)

農家等の事業活動に使用される肥料となると一定以上の品質が求められます。コンポストで作成された肥料が水準を満たせるか不明なため民間事業者に使用を促すのは難しいと思われれます。

(環境局 資源循環推進部 廃棄物対策課)

「地球温暖化の対策の意義などを伝えていくこと」について

本市では、市民の皆様が開催する集会や会合、学校の授業などに、市の職員が出向いて市の施策や制度、事業等について分かりやすく説明する「出前講座」を実施しています。この出前講座の中には、地球温暖化対策に関するものも含まれており、もっと活用いただけるよう、周知等図ってまいります。

(環境局 環境共生部 脱炭素社会推進課)

「エネルギーの使用量自体を減らす取組」について

将来的にエネルギー使用量の減らした分の見える化を実現させるための調整を進めております。今後、様々な媒体を活用し、広報周知活動を進めてまいります。

(環境局 環境共生部 脱炭素社会推進課)